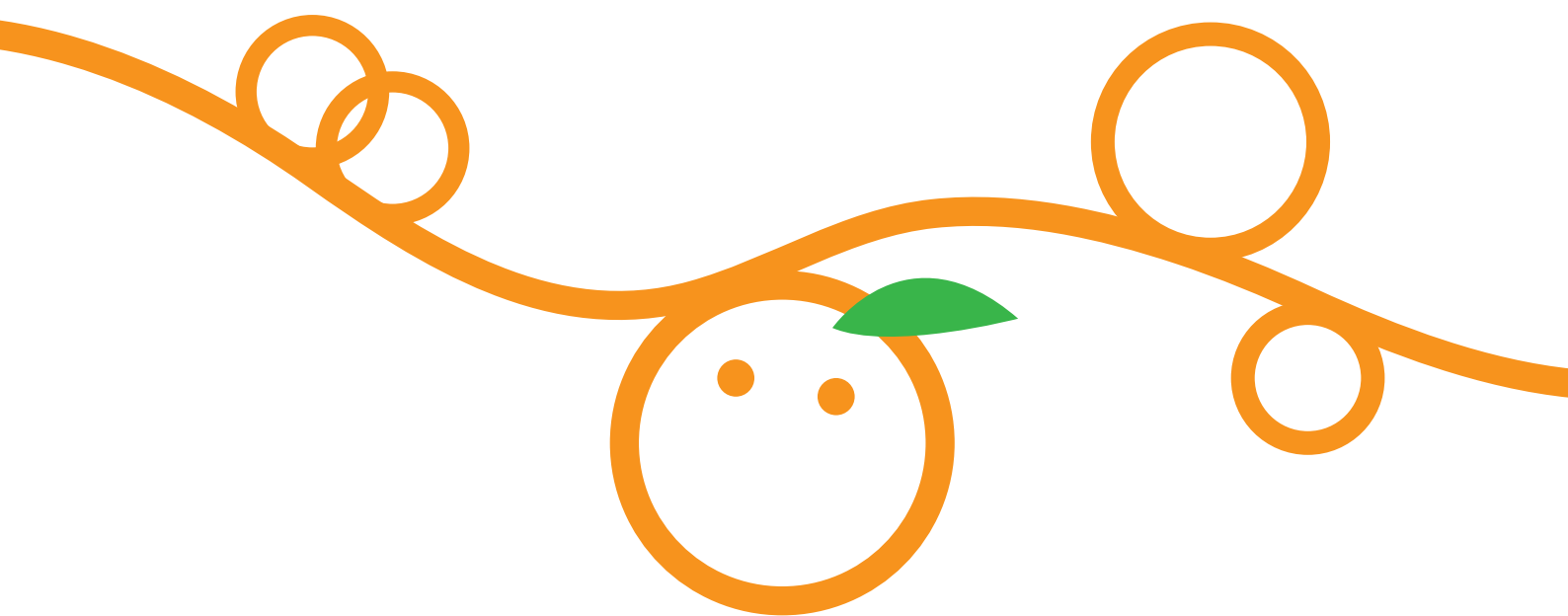


第14回
全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinえひめ

伊予の国発 ～縁(えにし)と絆(きずな)が生命線～

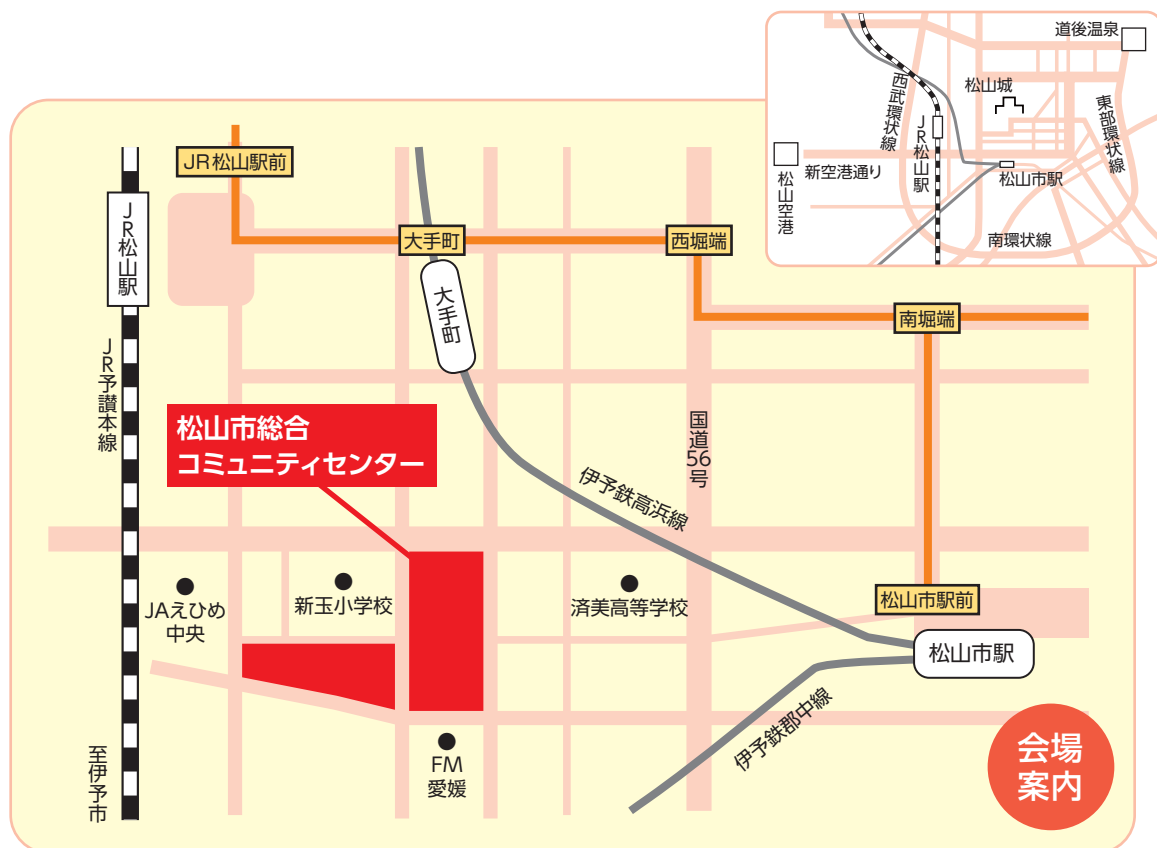


2011年2月5日(土)～6日(日)

松山市総合コミュニティセンター カメラリアホール ほか(愛媛県松山市)

主 催

「第14回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinえひめ」実行委員会
宅老所・グループホーム全国ネットワーク／伊予つむぐの会



松山市総合コミュニティセンター

〒790-0012 愛媛県松山市湊町7丁目5番地 TEL: 089-921-8222 FAX: 089-931-3304

松山市駅から徒歩10分

JR松山駅から徒歩10分

伊予鉄大手町駅から徒歩7分

松山空港からリムジンバス(JR松山駅下車)及び徒歩で約30分

松山観光港からリムジンバス(JR松山駅下車)及び徒歩で35分

実行委員会構成団体

まちづくり支援えひめ／認知症のひとと家族の会愛媛県支部／愛媛県老人福祉施設協議会
 愛媛県老人保健施設協議会／愛媛県社会福祉士会／愛媛県介護福祉士会／松山市民生児童委員協議会／松山市身体障害者協会
 愛媛県農業協同組合中央会／きんき会委託相談支援事業所／御荘病院／愛媛県社会福祉協議会
 松山市社会福祉協議会／縁側プロジェクト／伊予つむぐの会／宅老所・グループホーム全国ネットワーク
 (オブザーバー) 愛媛県／松山市／西条市

参加申込先・お問合せ先

(株) 伊予鉄トラベル

〒790-0004 松山市大街道3丁目1-1いよてつ会館1階

TEL.089-941-1744 FAX.089-941-1791

E-mail: iyotetsutavel@yahoo.co.jp 担当: 若山・竹田・菅原

内容に関するお問合せ先

「第14回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラム in えひめ」実行委員会事務局 宅老所・グループホーム全国ネットワーク

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1階 (CLC 東日本内)

TEL: 022-727-8731 FAX: 022-727-8737

第14回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinえひめ ～伊予の国発「縁(えにし)と絆(きずな)が生命線」～

開催趣旨

「認知症になったり、支援が必要になったとしても、なじみの関係や近隣との暮らしを大切にしながら、住み慣れた地域で、自分らしく、最期まで暮らし続けたい」…こんな高齢者や家族の願いに添えていくため、自治体や社会福祉法人以外は公的介護ができなかった介護保険制度導入以前の1980年代半ばから、宅老所の活動は始まり、全国に草の根的に広がっていきました。

宅老所は、自主事業(制度外)としてのデイサービスから出発しました。そして、高齢者や家族の心身状態を配慮し、必要に応じてデイサービスで「泊まり」を始めたり、自宅へ「訪問」したり、さらには、泊まりの長期化(「住む」)にも対応しながら、地域とのつながりを切らずに、最期まで自宅での暮らしを続けていくこと(「看取り」)を、できるかぎり支えてきました。

2000年4月の介護保険制度導入後は、制度による支援と、制度の対象とならない支援との狭間等で生じる課題について、時には理解が得られず軋轢を生じつつも、常に国や自治体に理解を求めながら、目の前にいる高齢者や家族の願いに添えていくため、宅老所による支えは変わることなく続いています。

第14回を迎える本フォーラムでは、「伊予の国発『縁(えにし)と絆(きずな)が生命線』」をテーマとして、このような宅老所に関する歴史や現状の認識を深め合うとともに、高齢者や家族が望む地域での暮らし方を支えていくために、地域に必要なものや、宅老所が果たすべき役割について考え合います。

◆日 程：2011年2月5日(土)～6日(日)

◆場 所：松山市総合コミュニティセンター／愛媛県松山市湊町7丁目5番地

◆主 催：「第14回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムinえひめ」実行委員会
宅老所・グループホーム全国ネットワーク／伊予つむぐの会

◆共 催：小規模多機能ホーム研究会／地域共生ケア研究会
特養・老健・医療施設ユニットケア研究会／地域サテライトケア推進プロジェクト

◆後 援：(全国)
(予定) 厚生労働省／社団法人全国老人保健施設協会／一般社団法人日本慢性期医療協会
公益社団法人日本認知症グループホーム協会／全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会
社団法人全国有料老人ホーム協会／社団法人シルバーサービス振興会／社団法人認知症の人と
家族の会／社会福祉法人中央共同募金会／福祉自治体ユニット／財団法人さわやか福祉財団
社団法人長寿社会文化協会／財団法人高齢者住宅財団
(愛媛県内)
愛媛県／松山市／西条市／愛媛県グループホーム連絡協議会／えひめ地域政策研究センター
えひめ地域づくり研究会／愛媛新聞社／NHK松山放送局／南海放送／テレビ愛媛
あいテレビ／愛媛朝日テレビ／愛媛CATV／FM愛媛

◆定 員：600人

◆参加費：12,000円 ※当日資料含む

◆参考資料代：3,000円 ※宅老所・グループホーム全国ネットワーク会員は1,000円/1会員1人のみ

◆懇親会：5,000円 (2011年2月5日(土) 松山市総合コミュニティセンター 大会議室にて)



1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了、1995年から東京大学大学院人文社会系研究科教授。

専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。近年は高齢者の介護問題にかかわっている。『おひとりさまの老後』(法研)、『男おひとりさま道』(法研)、『ニーズ中心の福祉社会へ』(中西正司と共編)(医学書院)、『岩波シリーズ ケア その思想と実践』(全6巻・編著)(岩波書店)、『世代間連帯』(共著)(岩波書店)、最新刊に『女嫌い』(紀伊國屋書店)など著書多数。

12:40～13:00	開 会		
13:00～14:10	特別講演 「最期まで在宅で」 ●講 師 東京大学大学院 教授 上野千鶴子		
14:10～15:10	「日本発のケア実践—TAKUROSHO—を考える 1」 ～そもそも、宅老所とは何か!～ ●対 談 井戸端介護(千葉県) 全国コミュニティライフサポートセンター	理事長 伊藤 英樹 理事長 池田 昌弘	
15:10～15:30	休 憩		
15:30～16:45	「日本発のケア実践—TAKUROSHO—を考える 2」 ～住み慣れた地域で暮らし続けるための支援とは?～ ●パネラー 宅老所実践者 すずの会(神奈川県) ●コーディネーター 神戸学院大学総合リハビリテーション学部	調整中 代 表 鈴木 恵子 准教授 藤井 博志	
16:45～17:00	休 憩		
17:00～18:15	「日本発のケア実践—TAKUROSHO—を考える 3」 ～宅老所の役割と制度のあり方～ ●パネラー ハートinハートなんぐん市場(愛媛県) 松山市保健福祉部介護保険課 熊本県健康福祉部 栃木県 厚生労働省老健局 ●コーディネーター 日本福祉大学社会福祉学部	理 事 長野 敏宏 (御荘病院 院長) 課 長 高橋 實 部 長 森枝 敏郎 副知事 麻生 利正 企画官 宮崎 敦史 教 授 平野 隆之	
18:30～20:30	懇親会		

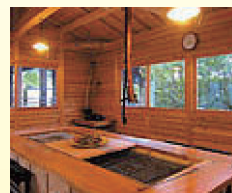
井戸端介護(千葉県)

2002年に、シャッター通りとなってしまった木更津市の商店街に開所した「井戸端げんき」。民家を活用したデイサービスからスタートし、利用者の希望から、共同民家「かつばや」や知的障がい者デイサービス「みちばたヨイショ」を開設。日課にとらわれない緩やかな時間の流れの中で、誰でも受け入れる地域のオアシス的存在。



ハートinハートなんぐん市場(愛媛県)

2006年に、設立された特定非営利活動法人。障がい者の就労支援、地域振興、環境保全を目的として設立され、現在「観葉植物のレンタル」「山出憩いの里温泉の運営」などの事業に取り組んでいる。これらの事業の成長・拡大は、そのまま地域の活性化、雇用機会の拡大に直結するように運営していくことを計画。



すずの会(神奈川県)

ボランティアグループすずの会は、高齢化率17.2%、約28,000人が暮らす川崎市宮前区野川地区で、助け合える活動しようとして1995年に発足。“普通のおばさんグループ”であることにこだわり、専門職が投げ出す難ケースにも対応。ご近所サークル「ダイヤモンドクラブ」の活動は必見。





分科会 1

宅老所の魅力! 教えます
～もっと自由に、もっと自分らしく、
その人らしさを支える～

●パネラー

はなのいえ(兵庫県) 代表 内海 正子

デイサービスセンター池さん(愛媛県)

代表 池内 大輔

玄玄(広島県)

代表 藤淵 安生

●コーディネーター

日本福祉大学地域ケア研究推進センター

研究員 奥田 佑子

分科会 2

いつまでも安心して暮らせる地域のあり方
～みんなで支え合う地域包括ケアシステム～

●パネラー

豊中市社会福祉協議会(大阪府)

地域福祉課長 勝部 麗子

明石市望海在宅介護支援センター(兵庫県)

看護師 永坂 美晴

特別養護老人ホームひろた(愛媛県)

施設長 丹 紀代

かべ工房村(広島県)

理事長 国松 浩司

●コーディネーター

聖カタリナ大学人間健康福祉学部

教授 下田 正

分科会 3

団塊の世代の生き方・死に方・支え合い方

●パネラー

縁側プロジェクト(愛媛県) 代表 稲津 智

ハートinハートなんぐん市場(愛媛県)

理事 長野 敏宏

(御荘病院 院長)

長寿社会開発センター

常務理事 石黒 秀喜

●コーディネーター

西条市保健福祉部高齢介護課

副課長 近藤 誠

分科会 4

「人の元気は地域の元気」

●パネラー

つどい場さくらちゃん(兵庫県)

代表 丸尾多重子

おいでんさいグループ(愛媛県)

代表 村上 律子

三原さん家(福岡県)

三原 圭子

●コーディネーター

まちづくり支援えひめ

代表 前田 眞

9:30～11:30

11:30～12:20

昼食 休憩

はなのいえ(兵庫県)

2004年、住宅地の中にある民家を改造した小規模で家庭的な施設で、赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず受け入れる共生ケアを兵庫県姫路市で開所。地域との結びつきを大切に施設の運営を行っている。



玄玄(広島県)

“地域に暮らし本当にケアや支援が必要な人に、丁寧にかかわっていききたい”という気持ちで、2007年に広島市内に「通所介護事業所玄玄」を設立。「玄玄」とは、「極めて奥深いこと」の意。“人の奥深さをじっくりと大事にしたい”という思いで、「玄玄」と名づけた。



デイサービスセンター池さん(愛媛県)

代表の池内大輔さんが、富山県の「このゆびと～まれ」の地域共生ケアに感動し、2005年に開所した宅老所。介護保険のデイサービスのほかに、自主事業で、高齢者や障がい者、障がいのある子どもたちを「保険外の通い」「休日の通い」「お泊まり」で柔軟に受け入れている。今年の夏、池さん2号「大頭の池さん」をオープン。



明石市望海在宅介護支援センター(兵庫県)

人口約31,000人、約14,000世帯、高齢化率約20%の兵庫県明石市望海地区で、要援護者とその家族の暮らしを支えるために、区域内の保健・医療・福祉関係者が一堂に会する「望海地区在宅サービスゾーン協議会」を設置。健康・防災教室、市民フォーラム、親子福祉体験などを開催し、安心・安全に暮らせる地域づくりを目指している。



12:20～13:10

●講演

「宅老所への期待 ～介護保険のこれから～」

厚生労働省老健局

局長 宮島 俊彦

13:10～15:00

伊予の国発「縁(えにし)と絆(きずな)が生命線 ～縁ある暮らしでよりよく死ぬる～」

●パネラー

託老所あんき(愛媛県)

宅老所・グループホーム全国ネットワーク

愛媛県保健福祉部生きがい推進局長寿介護課

厚生労働省老健局

代表 中矢 暁美

代表世話人会 惣万佳代子

課長 藤岡 俊彦

局長 宮島 俊彦

●コーディネーター

福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット 志の縁結び係

国際医療福祉大学大学院

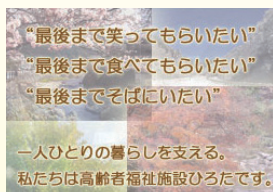
教授 大熊由紀子

15:00～15:10

閉 会

特別養護老人ホームひろた(愛媛県)

愛媛県のほぼ中央に位置し、四方を緑に囲まれた過疎の地域に2001年開設。入居者の65%が地域の方のため、地域の方との交流が多く、ご家族といっしょになって、ユニットケア、逆デイサービス、口腔ケア、おむつはずしなど、さまざまな取り組みを行っている。



おいでんさいグループ(愛媛県)

愛媛県上島町は瀬戸内海の大小25の島々からなる町。島々の一つ弓削島で、約20のグループが集まり経営するのが、特産品直売所「海の駅おいでんさい」。フリーマーケットを実施したり、「地産地消」をモットーに農産物を町の人に販売したりして、地域の輪を広げている。



かべ工房村(広島県)

「住み慣れた地域で、死ぬまで暮らしたい」を実現するためには、まちの人の交流が深く、地域での生活が多岐に富み、支え合い・助け合いが当たり前にある地域づくりが大切だと、街角ぶらっとホーム(コミュニティフリースペース)を設立。まち中の、みんなが気軽に利用できる縁側を目指している。



三原さん家(福岡県)

福岡県久留米市の、のどかな農村地域、高齢者も多い地域の中で、自宅を使い、近所の高齢者の集いの場、障がいのある方の住まいの場をつくり、「向こう三軒両隣」をモットーに、地域でお互いに支え合うことを広げている。



縁側プロジェクト(愛媛県)

松山市にある人口10,000人の垣生地区を拠点に活動するボランティアグループ。「歳をとっても認知症になってもここ垣生で暮らし続けたい」そんな願いを実現するためには普段からの行き来が大切と「心のテーブル」と称した食事会をはじめさまざまな取り組みで地域の人たちを巻き込みながら行っている。



託老所あんき(愛媛県)

「老いや死を考えることは、前向きに生きることと同じくらい大切なこと」。この想いで、1997年、愛媛県で初の「託老所を立ち上げ。この場所をお年寄りにとって、自分の家のように安らかであんきなところになりたい」との思いを込めて、松山弁で「気楽」を意味する「あんき」と名づけた。



つどい場さくらちゃん(兵庫県)

父母・兄の介護を10年間続けたのち、本人・介護者・介護職・医療者・行政・社協・議員・大学・学生・地域活動者・子ども・子育て中のママ...誰もが集える場・しゃべれる場・泣ける場・笑える場・食べる場・学べる場・ともに出かける場・生きる場として、つどい場をはじめて6年になる。

